

防犯活動

山口県周南市立周陽中学校 3年 谷川 慶悟



「犯罪」という言葉を聞いた時、あなたはどのように思うだろうか。犯罪は、誰もが悲しくなったり、最悪な思いになったりする恐ろしいものだ。そんな恐ろしい犯罪を防ぐために、警察がチラシを配ったり、地域の人が防犯パトロールを行うなど、様々な防犯の取り組みが行われている。その中でもぼくは、地域の防犯の取り組みに着目してみた。地域の取り組みには、防犯パトロールや子供110番の家などがある。ぼくは、これらの取り組みには2つの課題があると思う。

1つ目は、防犯活動をしている人の高齢化だ。僕が住んでいる地域では、市民センターの方が「青パト」という車に乗って、小中学生が下校する時間帯に防犯パトロールをしてくださっている。この活動のおかげで、ぼくたちは毎日、安心・安全に下校できている。しかし、この活動をしてくださっている人のほとんどが高齢者だ。防犯活動している人にもしものことがあったら、地域の防犯活動を行う人がいなくなってしまう。その結果、子供たちへの犯罪が増えてしまうかもしれない。そうなることを防ぐために、ぼくは、若い大人や地域全体の協力が必要だと思う。若い人たちが積極的に防犯パトロールなどに参加し、防犯活動の大切さや内容を学んで、今まで活動していた人たちに代わって活動を続けていくことが大切だと思う。そして、何より大事なのが、ぼくたち一人一人が防犯に対する意識を高めていくことだ。日頃から防犯ブザーをつけて生活したり、地域で行われている防犯教室に積極的に参加したりすることが、この課題を無くすうえで、一番大切なことだと思う。

2つ目は、コロナによって地域の人との関わりがなくなっていることだ。コロナ禍によって、今まで地域との関わりであった夏祭りやボランティア活動などが相次いで中止になった。この影響を受けている防犯活動が「子供110番の家」だ。この活動を行っている家には旗や看板などの目印がついており、もし、犯罪にあいそうになったら、この目印の家に逃げ込むことができるようになっている。ぼくは、この活動は地域の人と親しい関係を築くことが大切だと思う。どんな人でも知らない人の家いきなり入ることは勇気がいると思う。

ここで大事になってくるのが地域の人との関係性だ。日頃から地域の行事に参加して親しい関係を築いていくと、もし110番の家に逃げ込まなければならぬ時に安心して逃げ込めると思う。

しかし最近では、コロナ禍で地域の行事がなくなり、地域の人と関わる機会が激減してしまった。地域の人と関わる機会が減ると、もし110番の家に逃げ

込まなければならない時、「この人の家に入って大丈夫かな」「本当に助けてくれるのかな」と思ってしまい、逃げ込むのをためらってしまう。それを防ぐために、やはり地域の人との関係が大事になる。そういう関係を築くために、例えば、110番の家の活動を行っている人たちと子供たちのボランティア活動など、コロナの状況も気にしながら地域の人と関わることのできる活動を増やしていくことが大切だと思う。

ぼくの祖父も110番の家の活動を行っていて、子供たちとの関わりを大事にしている。コロナ前は、登下校する小中学生にあいさつをしたり、子供たちとの清掃ボランティア活動に積極的に参加したりして、子供との関係を大事にしていた。しかし、コロナ禍になって、マスクをつけて表情が見えなくなったり、行事がなくなったりして、子供たちとの関係を築くことが難しくなり、一度、110番の家の活動をやめようとしていた。しかし、祖父は、「子供たちの安全を守りたい」という思いから、今も110番の家の活動を続けている。祖父にとって、子供とコミュニケーションをとれるのが、110番の家の活動を続ける原動力になっていると思う。

最後に、地域の防犯活動を長く続けていくためには、先ほど述べた2つの課題をなくしていくことが大切だと思う。それと同時に、ぼくたち小中学生や若い大人が防犯活動のやりがいを知ることも大切だと思う。防犯教室などに参加して、子供たちの安全を守ることの大切さや活動を通じて子供たちとコミュニケーションをとれる楽しさを学び、将来的に、防犯活動を引き継ぐこと、それが活動を長く続けていくため、地域の安全を守るための第一歩だと思う。そして、ぼくたちも、日頃から防犯への意識を高め、自分の身は自分で守るという気持ちを持って生活していかないといけない。ぼくもこれから、自分でできる防犯対策には何があるのか、詳しく調べていきたいと思う。